

3. 若草山周辺地区

世界遺産での利活用の施設整備の事例

オーストリア



○オーストリア（ハルシュタット）

※コアゾーン 目的：生活に必要 【1996年世界遺産】

・ハルシュタット湖の湖畔に家々が並び立つ景観は、世界で最も美しい湖畔の町の一つとして知られる。

・一帯は「ハルシュタットとダッハシュタインの文化的景観」として、1997年にユネスコ世界遺産に登録された。

3. 若草山周辺地区

世界遺産での利活用の施設整備の事例

ポルトガル



○ポルトガル（ポルト歴史地区・フニクラール）

※バッファゾーン 目的：観光用に再建 【1996年世界遺産】

・ポルトガル北部の港湾都市。聖グレゴリウス聖堂、大聖堂、ポルサ宮、聖フランシスコ聖堂など有する旧市街が、人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例として、世界遺産登録基準における基準を満たしたと見なされ、登録がなされた。

・1891年に造られたフニクラールは、元々は荷物、特にポルトワインを運ぶのに利用されていたが、2年後の事故で閉鎖、世界遺産登録後の2004年2月に観光用としてリモデルして再開。高低差は61メートル。

3. 若草山周辺地区

世界遺産での利活用の施設整備の事例

チリ



○チリ（バルパライソの海港都市とその歴史的な町並み）

※コアゾーン 目的：生活に必要 【2003年世界遺産】

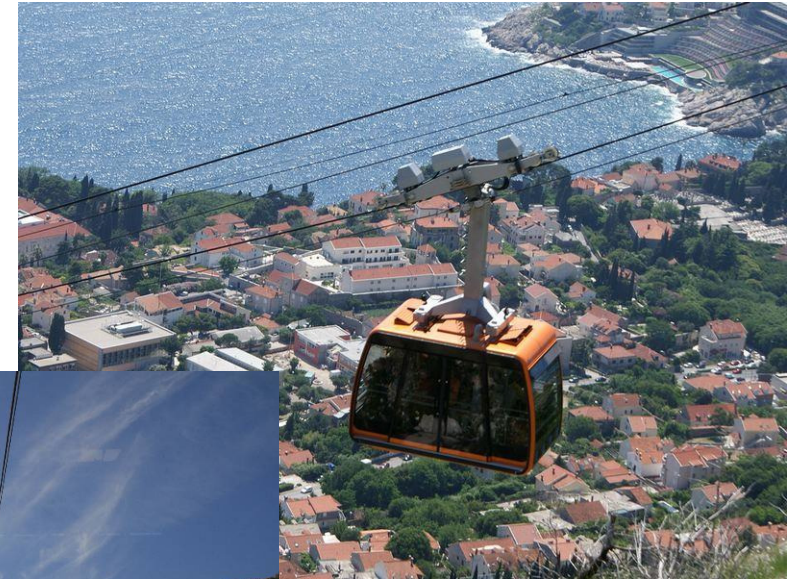
・昔の港町の面影が随所に残っているバルパライソの街は、「バルパライソの海港都市とその歴史的な町並み」として登録。

・この町の交通機関として、「アセンソール」は約120年前に造られた。これは観光用ではなく、地元の人々の生活のために造られたもの。120年前にこのような交通機関を造った例は貴重なものである。

3. 若草山周辺地区

世界遺産での利活用の施設整備の事例

クロアチア(ドゥブロヴニク)



○クロアチア（ドゥブロヴニク旧市街）

※バッファゾーン 目的：観光利用 【1979年世界遺産】

・クロアチアの最南端に位置するドゥブロヴニク旧市街は、13世紀以降に地中海交易の拠点として栄え、「アドリア海の真珠」と呼ばれるほど美しい町並みを誇り、アドリア海沿岸でも傑出した観光地である。

・範囲外に旧市街地を見下ろすため、東側のスルジ山山頂にロープウェイを設置したが内戦で破壊。世界遺産登録後の、2010年に再開。

3. 若草山周辺地区

世界遺産での利活用の施設整備の事例

マレーシア(ジョージタウン)



○マレーシア（ジョージタウンのペナンヒル）

※ゾーン外 目的：観光利用 【2008年世界遺産】

・ジョージタウンはペナン島の東側に位置し、イギリス植民地時代の建物と、様々な文化が融合した独特の町並みを今もなお残している。

・北西約7 kmにあるペナンヒルは、標高830mの山。1923年に山頂までケーブルカーが設置され、2011年に改修された。

4. 吉城園周边地区

4. 吉城園周辺地区

